

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2775004902		
法人名	社会福祉法人 美正福祉会		
事業所名	グループホーム サニーハウス		
所在地	東大阪市御厨南2-6-11		
自己評価作成日	平成29年10月16日	評価結果市町村受理日	平成30年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して12年、利用者さまも高齢化が進みご自分で出来ない事が多くなされた為、本人様の思いをより汲み取れるよう常に寄り添う姿勢で一人一人が気づきが出来よう心掛けております。家族様や地域のボランティアさんにご協力を得ながら、外出の機会やレクリエーションの時間を作り少しでも刺激のある生活をして頂けるよう努めております。施設で看取りを希望されている家族様も少なくないので最期まで家族様も職員も後悔のない看取りが出来よう共に支えていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人「八戸ノ里病院」の先代理事長が深刻な高齢化を迎え「高齢化・認知症予防を通して一層地域社会に貢献したい」との熱い思いから、平成17年6月にデイサービスと併設して開設した。事業所理念を「利用者の意向を尊重する、一人一人の尊厳を保持する…」とし、2ユニット利用定員12人という少人数の特徴を生かして、利用者により寄り添い一人ひとりの思いや希望を逸早く汲み取り、外出の機会やレクリエーションの時間を多くして楽しく笑顔の溢れる生活が送れるように、16名と多い職員配置できめ細かいケアに取り組んでいる。施設長、管理者と職員のコミュニケーションは良く取れていて相互信頼が厚く自主性を尊重しているため、職員のモチベーションは高くスキルアップに努め明るく笑顔で生き生きとケアに励んでいる。母体医療法人の全面的バックアップにより、利用者・家族は安全・安心である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、職員一同サービス提供出来る様努めている。	法人理念を基に「利用者の意向を尊重する、個人の尊厳を保持、創意工夫する」を事業所理念としている。ユニット事務所に掲示し職員皆で共有すると共にその実践に努めている。	開設から12年余を経過し、環境の変化やホームの現状に即しかつ「地域密着型サービスの意義と役割」を加味した理念の作成・検討を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方を始め地域の方と交流し情報の交換を行っている。毎日、利用者さんと散歩に行き近所の方と交流している。	自治会に加入し地域の一員として交流に努めている。毎日の散歩や買い物の折近所の人たちと挨拶を交わしたり、近くの神社への初詣、盆踊りや秋のダンジリ祭など地域の行事に参加して交流を図っている。民生委員や近くのボランティアが熱心に訪問し、情報提供と支援を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方の相談を受けディーサービスの紹介や他施設の紹介等行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括での活動や、他施設での取り組みを伺い自施設のサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、民生委員、利用者および家族代表と施設長・管理者が参加して隔月、年6回開催している。利用者の現況、ボランティア・行事等の報告後活発な意見交換が行なわれ、サービス向上に活かしている。他グループホーム管理者、ボランティアの参加依頼も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事があれば市役所の方に質問し指導して頂いている。	福祉部指導監査室および福祉センターの担当者と緊密に連絡を取っている。ホームの現況を報告・説明し、不明な事や困難事例について相談してアドバイスと指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為やむおえず身体拘束を行う時は必ず月1回家族の承諾を得て、施設では身体拘束会議を月1回開催している。玄関の施錠は、安全策の為施錠している。	年間研修計画の中で「身体拘束の弊害と禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して、拘束しないケアに努めている。情緒不安定な利用者の為安全上玄関は施錠しているが、素振りや察知して外出同行するよう対応を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は市主催の高齢者虐待の研修に参加し参加した者が後に施設内研修にて講義している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を増やしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様に十分な説明を行い疑問点などが無いか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた際は利用者さんの近況をお話し、気になられることは無いか常に伺うようにしている。	利用者の意見・要望は、日々の関わりの中で、特に入浴や散歩等の個別ケア時に些細な事でも書きとめている。家族の意見・要望は訪問時行動計画実施記録等を基にホームでの暮らし振りを説明しながら意見・要望を丁寧に聞き取って皆で検討して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を必ず行き職員の意見を聞き現場に反映させている。又日常の中でも提案、意見を聞くようにしている。	施設長・管理者と職員とのコミュニケーションは良く取れており何でも話せる関係にあり、相互信頼が厚い。それで職員の表情が極めて明るく元気一杯である。利用者の個別ケアに関することは、気づいた時点で相談し即決している。提案により全体に関わる事案は、主任が事前にアンケート形式で意見を取りまとめ定例会議で検討して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を良くするため常に職員の意見を聞き向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルアップを目指すため施設内外の研修に参加し個人の質を向上出来るよう目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会・会議などに参加しネットワーク作りが出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を少しでも取り除けるよう職員同士連携を取りながら、本人の要望に応えられるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解し、安心して頂け共に支えていける信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	詳しくアセスメントを行いながらケアマネジャーと連携をとりサービスの優先を見極めて行けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	終の棲家として過ごして頂ける様家族を介護している気持ちで支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は近況報告を行い家族に相談に乗ってもらったり良い関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など面会に来られてた時は関係が途切れないよう声掛けし来て頂けやすい環境を作る。地元の神社や盆踊りなど参加するようにしている。	開設当時に比べ馴染みの人・場所との関係が薄れている。しかし3~4人の友人・知人が訪問時は温かく対応し、馴染みの関係が継続するように支援している。また行きつけの美容院、日用品店、地元の神社や公園等数少なくなった馴染みの場所に同行支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士が良いコミュニケーションをとり職員以外の方との関わりも大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族とも時より相談を受けたり現在も関係性が継続している家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者に関わる中で本人の思いや意向をくみ取るよう努めている。	アセスメントシートを基に、日々の関わりの中でホームでの暮らし方の希望や意向の変化を聴き取るように努めている。特に、散歩や入浴時心身のゆったりする個別ケアの時に率直な意向が聞けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活の情報を元に本人の歴史やサービス利用の経過を把握し出来るだけ在宅での暮らしに近づけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを心がけその時その時個々に合ったケアが出来る様志している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにケアカンファレンスを行い現状に添った介護計画を作成している。	3ヶ月毎にサービス担当者会議を開いて計画見直しの要・否を話し合っている。本人・家族の希望、主治医・看護師の所見と当ホーム独自の行動計画実施記録、ケアプラン評価表、モニタリングの結果等を基に本人の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い申し送りにてより詳しく情報交換を行い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日により状態が変わっていく為その時々ニーズに対応できるよう暮らしの中で発見していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方を始め生活を楽しめるよう支援してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を受け体調不良時はかかりつけ医に受診し家族に報告している。	本人・家族の意向を尊重しているが、現在は家族の希望で全員がホームの協力医の訪問診療を、内科は第1・3(土)全員、歯科は毎週(金)希望者が受診している。精神科・皮膚科など専門医には家族付き添いが原則であるが殆んど職員が同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早い段階から看護師に報告し適切な助言・受診を行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と連携をとり早期に退院出来る様常に病院側と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と終末期について話し合い施設での看取りについて説明し同意を得ている。	契約時に重度化・終末期に向けた事業所対応方針を基に本人・家族に説明し、同意を得ている。その後は状況の変化に応じて、医師を交えて家族と話し合って本人に最善の対応・支援に取り組んでいる。これまでに4人の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議などで急変時の対応について定期的に確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、災害訓練も行っている。	年2回の消防・避難訓練の他、地震・水害等防災マニュアルを作成し自主避難訓練も実施するようになっている。スプリンクラー・火災報知器・通報装置・消火器も完備。備蓄も食糧・水・介護用品を用意している。ホーム近くに住む自治会長やボランティアに避難者の見守り役に限定した協力を働き掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なわないよう言葉掛けには、職員同士気を付け、時には、注意し合うようにしている。	毎年定期的に接遇・人権・プライバシーの研修を実施している。当ホームの理念である利用者一人ひとりの人格尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け・対応をするように全職員が真摯に取り組んでいる。気になるケースがあれば、直ぐに注意し合う環境が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定出来やすい環境をつくり出来ない方には、家族と共に本人の思いを把握出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に本人の体調、様子からその日どのように過ごして頂くのが良いか考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	殆ど女性の方なので、特に身だしなみやおしゃれには気を付けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いして頂ける利用者には、職員と一緒に食器洗いや食器拭きをしてもらっている。	給食センターから毎日、栄養やカロリー計算された配食が届けられ、職員は利用者と共に盛り付けなどの準備を行っている。利用者の希望でメニュー変更したり、お好み焼きの日など工夫しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、記録し一日の必要な摂取量を摂取してもらうようにしている。個々の状態によりトロミ粉をつけたり本人が飲みやすいように食器も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの方が自分で出来ないのでマンツーマンにて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの方も出来るだけ昼間は、二人介助にてトイレ誘導を行っている。少しでも失禁をなくすよう排泄の状態を把握している。	リハビリパンツ、パットなどを組み合わせ、排泄チェック表によるタイミングのよいトイレ誘導により、排泄の失敗を減らして自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取してもらえるよう声掛け、介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回お一人お一人ゆっくり入ってもらえるよう時間を設けている。	入浴は週3回の午前にゆったりと時間をかけて楽しんでいる。入浴拒否の利用者には無理強いしないで個別の対応がある。季節の菖蒲湯、ゆず湯や入浴剤で入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、傾眠されるのでほとんどの方にお昼寝をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の状態により看護師に相談し服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんによるレクリエーションや行事などで気分転換が出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日交代で散歩に行くようにしている。外出がお好きな方には、職員と買い物と一緒に掛けてもらっている。	気候により春には桜が咲く近くの川沿いの道への散歩、ボランティアの協力のもと水族館に出かけたり、車での遠出ドライブなど普段は行けないような場所へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お二人だけお買いものに行かれる時だけお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方や希望される方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、職員手作りの季節感のある工作を張り付けたり常に人が集まる明るい空間にしている。	共用のリビングには一人になれる空間として廊下の端にソファを置いたり、季節により職員が手作りの折り紙作品を飾ったりなど、生活感や季節感を工夫しながら居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話される時は、食堂に出てこられお一人になられたい時はお部屋で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用されていた馴染みのある家具など持って来てもらうようにしている。	居室にはエアコン、ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられている。利用者は自宅での使い慣れたタンスやいすなど思い思いに持ち込んで家族の写真を飾ったりしながら自分の好みの空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の危険防止の為に手摺にクッションのテープを貼ったりベッド柵などにも工夫している。		